

## 日本微生物資源学会第22回大会報告

第22回大会事務局長 牛島秀爾

平成27年度の大会は、鳥取大学農学部附属菌類きこの遺伝資源研究センター（FMRC）が担当致しました。会期は9月9日（水）～9月11日（金）の3日間、鳥取市の「とりぎん文化会館」で開催致しました。開催前日には台風が直撃するような予報でしたが、幸いにも会期中は非常に穏やかな天気にも恵まれ、絶好の学会日和になりました。本大会参加者の内訳は、正会員（機関会員を含む）47名、賛助会員3名、名誉会員1名、非会員19名（招待講演者含む）、学生10名の計80名となり、鳥取市という交通の不便な場所でありながら、当初の予想よりも遥かに多くの参加申し込みがあり、大変うれしく感じた次第です。

大会初日は、午後から編集委員会、カルチャーコレクション委員会および理事会を実施致しました。2日目は実務ワークショップ、ポスター発表、微生物資源シンポジウム、総会、受賞講演および懇親会、3日目は一般講演（口頭発表）の後、系統分類部会主催の基調講演と閉会式を行い、閉会後はエクスカージョン（FMRCと鳥取砂丘を巡るバスツアー）を実施致しました。

10日（木）の午前中に行われた実務ワークショップでは、「寄託される微生物株の品質向上に向けたカルチャーコレクションの取り組み」と題して、押田祐美氏（JCM）、藤田克利氏（NBRC）、森 史氏（NIES、一般財団法人地球・人間環境フォーラム）の3名に微生物株の寄託と受け入れ態勢および品質維持に関する様々な取り組みや問題点・解決策などについてご紹介をいただきました。ポスター発表は26題の申し込みがあり、会場1階のガラス張りで広々としたフリース

ペースで行いました。バクテリアから菌類、藻類まで幅広い生物群の系統分類、生態、保存法等に関する最新の研究報告と各保存機関の事業報告について、活発な意見交換が行われました（写真1）。今回のポスター発表は、会期中に少しでも多くの意見交換が行えるよう、演題番号の奇数と偶数で分けて講演時間をずらして行いました。午後からの微生物資源シンポジウムでは、「きのこ類のもつ様々な機能性とその活用」（コンピナー：前川二郎鳥取大学農学部教授）と題して、前川教授の挨拶の後、菌根菌の栽培や木材腐朽菌の分解能力とその利用ならびにきのこが生産する有用物質の植物病害防除にむけた応用等について、寺島和寿氏（菌茸研究所）、山中高史氏（森林総合研究所）、岡久美子氏（鳥取大学農学部）ならびに紙野圭氏（NBRC）の4人の方々に、大変興味深い最新のご研究を紹介していただきました。総会では江崎会長の進行のもと進められ、まず本年は日本微生物系統分類研究会との合流を受けて、本学会の新ロゴデザインを募集した結果、伴さやか氏（NBRC）の作品が採用されたことが報告され、学会長より表彰状と砂像の記念品が授与されました（写真2）。授賞式では、仲田崇志氏（慶應義塾大学先端生命科学研究所）の「緑藻綱オオヒゲマワリ目の分類学的再編に必要なこと」と題する研究について学会長より奨励賞が授与されました（写真3）。懇親会は57名のご参加をいただき、大会長の挨拶の後、鳥取大学農学部の田村文男農学部長に歓迎の挨拶と鳥取の梨をご提供いただきました。（一財）日本きのこセンター菌茸研究所からはジャンボシイタケをご提供いただきました。懇親会では鳥取の海と山の幸を

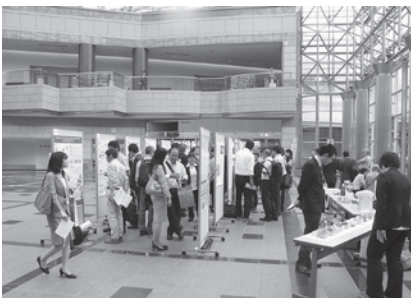


写真1 ポスター発表の様子



写真2 伴 さやか氏



写真3 仲田崇志氏



写真4 懇親会の獅子舞



写真6 平石 明氏



写真5 森 史氏, 林 将大氏 (代理)



写真7 岡崎友輔氏

ふんだんに使用した料理と郷土芸能の獅子舞の披露を行い、大いに盛り上がるともに、親睦を深めていただけたものと思います(写真4)。また懇親会の途中で優秀ポスター賞の表彰式を行い、森 史氏(NIES, 一般財団法人地球・人間環境フォーラム)らと吉田 茂氏(岐阜大学医学部病原微生物遺伝資源保存センター)らに大会長より表彰状が授与されました(写真5)。

11日(金)は、6題の口頭発表を実施し、バクテリアから糸状菌、きのこ類など様々な分類群における分類・生理・生態・菌株育種および菌株保存に関する研究について発表がなされ、活発な議論と意見交換が行われました。一般講演の後には、系統分類部会主催の基調講演が行われ、「微生物多様性の研究における培養性の意義」と題しまして平石 明氏(豊橋技術科学大学環境・生命工学系)により大変興味深くかつ考えさせられる内容のご講演が行われました。この後、大会長より感謝状と砂像の記念品が進呈されました(写真6)。閉会式ではベストプレゼンテーション賞の授賞式を行い、厳正な審査の結果、岡崎友輔氏(京大学生態学研究センター・博士後期課程)らに大会長より表彰状が授与されました(写真7)。

本大会終了後のエクスカージョンでは昼食後、鳥取

砂丘の散策、砂の美術館およびFMRCの施設見学を行いました。

最後になりますが、遠方よりお越しいただきました皆様方に厚く御礼を申し上げます。少人数の大会事務局で慣れでもあり、何かと行き届かないことが多かったことと存じますが、多くの方々のご支援とご助言を頂けたことで無事大会を開催することができました。本大会では大会を企画運営する中で、非常に多くのことを経験し学んだ次第です。今後の皆様方の研究のご発展とバクテリアからきのこに至る微生物学研究が益々発展することをお祈り申し上げます。